

友史会2024年6月例会

大和八木駅から橿原神宮前駅までの遺跡を歩く

- ・ 令和6年6月16日(日)午前10時 近鉄大和八木駅(北口)駅前広場集合
- ・ 案内 鈴木朋美 (学芸課主任研究員)
- ・ コース 近鉄大和八木駅→八木環濠→国分寺跡→JR畝傍駅→院上遺跡
→飛鳥川東・西橋梁→今井環濠→四条遺跡→小房線跡→大窪寺跡→橿原遺跡
→久米石橋遺跡→近鉄橿原神宮前駅

【例会だより】

今月は近鉄大和八木駅北口広場の集合場所に大勢の参加者（155名）が集まり、橿原神宮前駅までの7キロ圏内にある様々な時代の数々の遺跡をご案内いただいた。

大和八木駅から南東に5分歩くと八木の札の辻という、古代の横大路と下ツ道の交差点がある。そこを中心に町が発展し、町が堀で囲われていた環濠集落だったといわれる。辻の角に井戸を見かけたが、水路が暗渠と化している現在、かつての環濠集落の様子を想像するのは難しい。一方で横大路を伊勢参りや吉野・熊野詣等多くの通行人が行き来する様子は、江戸時代の風情が残る整然とした町並みから容易に想像でき、目に浮かんだ。

下ツ道を南に進み、右手の国分寺跡を過ぎると広々とした敷地を持つ畝傍駅。駅舎は社寺風の木造平屋で天井が高く広々とした造り、昭和15年の皇紀二六〇〇年祭式典に合わせて建替えられ、駅舎には貴賓室を備えている。今までに2回橿原神宮を訪問されたときに使用された（昭和天皇皇后が式典に出席された時と上皇上皇后がご結婚を報告された時）。

橿原中央郵便局建替え時の発掘調査で南北に延びる溝二条と更に西六坊坊間路が見つかり、大藤原京として認識された意義深い院上遺跡を通過。すぐ西の飛鳥川橋梁を超えて今井町まちなみ交流センター周辺で早めの昼食を取り、午後一番に四条遺跡に向かった。

県立医大の運動場建設時の発掘調査により弥生時代前期の土器棺墓、弥生中期の土坑、溝、井戸、古

墳時代中期の四条1号墳（方墳、西に造り出し、大量の木製威儀具が立て並んでいた）、四条 ㊦ 号墳（円墳、西に造り出し、威儀具は殆ど出土無し）が見つかった。藤原京の条坊道路造営工事や施工と宅地整地のため、四条大路に並行して溝を掘り運河を設けて運搬したと聞いた時、人の知恵と工夫に感心した。いよいよ畝傍領域に進む。

皇紀二六〇〇年祭典の前年、畝傍駅と橿原神宮前駅が繋がり、13年で廃線になった小房線の跡をたどった。住宅地にかつての水路の橋台が残り、大久保神社周辺にも水路に架かる橋台が残っている。

橿原遺跡は畝傍山の東側に位置し、縄文晩期の遺物・数多くの土偶やヒスイ玉、クジラの骨など、弥生以降の井戸が多く出土した遺跡。皇紀二六〇〇年祭典に向けて全国からの勤労奉仕隊により神宮周辺の整備が進められ、末永雅雄氏が発掘調査の指揮する拠点となった事務所設置が、現在の橿原考古学研究所の創設となった。

終わりに、いつも通り慣れている道の脇に多様な遺跡と遺構がある事を改めて知りました。各時代の背後にある社会やその為に強制移動をさせられた人々がいたこと等、祝祭の陰にあった暗の歴史を忘れることなく、時代を問わず人々の知恵と工夫の詰まった遺構が多く残っていることに一瞬未来を楽観できるような明るさを感じて、歴史から学ぶ意味を再認識できた気がします。

鈴木朋美先生、明るく心こもったご説明と有意義な一日をありがとうございました。

奈良市 原崎 多世子

【記録写真】

八木札の辻で説明



JR 畝傍駅構内



今井町付近に架かる飛鳥川の橋



飛鳥川西橋梁の煉瓦にある刻印



華葺で昼食



今井町で説明



四条古墳群（四条町高架道路の下で説明）



大窪寺跡



大久保神社橋台跡



檀原遺跡の説明



以上